

# 上条 報告

第19号

平成22年12月

甲州市教育委員会  
☎32-5097

世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」

## 白川村荻町を見学しました

十一月五日に、ひよんなことから白川村荻町の合掌造り集落を見学することができました。

白川村荻町は岐阜県に所在しますが、富山県南砺市の「相倉」「菅沼」とともに世界遺産に登録されている集落で、三集落とも重要伝統的建造物群保存地区にも指定されています。なかでも荻町は、規模的にも大きく、最も有名な地区として知られています。

見学した日はあいにくの雨の天気でしたが、それでも集落内には人があふれており、駐車場は満杯で、大型バス専用の駐車場にもバスが常時十数台止まっているような状態でした。

以前、妻籠宿や馬籠宿でも感じたのですが、見学者は日本人ばかりでなく、中国・韓国・インドなどのアジアの方々、また、欧米の方々も非常に多く、伝建地区が国際的な評価を得ているということが改めて実感できました。



集落から庄川を渡ったところに整備されている駐車場と、駐車場へつながる吊橋。

### 白川村荻町（山村集落）

所在地	岐阜県大野郡白川村大字荻町字上反保、中反保、西通り、山越、沖田、岩崎、木戸口、木山、中屋、小呂上田通り各全域並びに宇シユウト尻、下ゴソ、上町、寺田、小呂下川原の各一部
種別	参村集落
条例制定年月日	昭和五十一年五月一日
選定年月日	昭和五十一年九月四日
地区面積	約四五・六ヘクタール
保存物件数	建築物 一一七件 工作物 七件

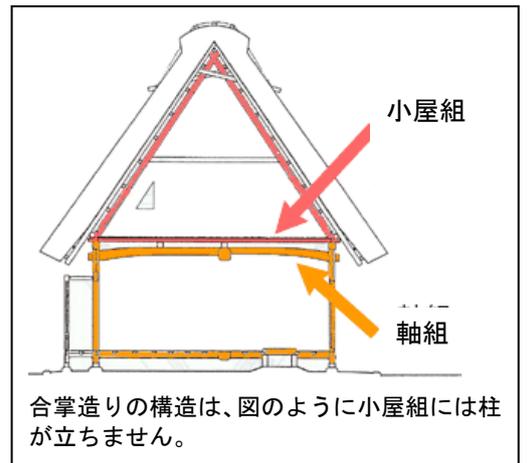
白川郷は日本有数の豪雪地帯です。保存地区は庄川に沿って走る街道を中心に開けた集落で、周辺地域と比べるとずいぶん平坦な地にあります。

以前、第二回勉強会のときに後藤先生から説明がありました。荻町の集落構造として、街道に沿っては勾配の緩い町並みが形成され、街道から庄川の反対側、東側に合掌造り民家が集まっています。

合掌造りについては「第十四号」で若干触れていますが、急勾配の屋根は豪雪対策ですが、峡東地域の茅葺切妻造り民家と同様に、当時の主幹産業だった養蚕と強く結びつき発生・進化した形式です。二階に上がるとその広さに驚きますが、これは急勾配の屋根を支える「叉首」という特殊な構造によるもので、峡東地域の民家のように、「棟持柱」に類する床から天井へ抜ける柱が合掌造りにはみられないため、空間的にも広く、かつ、作業の障害となる柱列もありません。

### 合掌造りは、居住空間である「軸組」と、屋根を形成する「小屋組」とが、構造的・空間的に完全に分離するところに特徴があります。これは、軸組は大工の仕事で、小屋組は住民の伝統的な互助制度「ユイ」による仕事と分けられているからです。南砺市の菅沼集落では、軸組は富山の中心地から大工を呼んで造ってもらったという話が残っています。

歴史的には、養蚕民家のため養蚕が盛んになる十七世紀末から十八世紀初頭ころに出現したと考えられています。これは、峡東地域の茅葺切妻造り民家の古例、川崎市立日本民家園に移築された旧廣瀬家住宅（中子沢）や中村太丸さん宅など、の建築年代と一致しますが、峡東地域の民家はその後十八世紀に入って突き上げ屋根の付加、棟持柱の採用など、養蚕に適した形態に改めていきますので、産業としての養蚕そのものは白川郷のほうが進んでいたのでしょうか。



合掌造りの構造は、図のように小屋組には柱が立ちません。



荻町で最大級の民家・長瀬家。5階建、総面積600坪と圧巻です。小屋組は太く密に並べた叉首により、広い作業空間を確保しています。



菅沼



相倉



荻町

### 岐阜県側の合掌造りと富山県側の合掌造りの違い

写真は、右から白川村荻町、南砺市相倉、南砺市菅沼、の妻側を写したものです。荻町の妻側にみえる茅は刈り込まれ、峡東地域の仕上げ方と同じですが、相倉と菅沼の仕上げは、回り込ませるような丁寧な葺き方ですので、丸まった感じがします。

「守る会」の運動は、合掌造り民家を周辺の環境ごとと保存することにより、「観光立村」を目指すことになりました。「環境ごとと保存する」という理念は、恐らく「妻籠を愛する会」の理念に共鳴したためでしょうが、昭和四十年代に民家だけでなく周辺の畑地、山林まで保存の対象と捉え活動したことは、驚くべきことです。この「守る会」の住民運動は、昭和五十一年の文化庁による重要伝統的建造物群保存地区の選定、平成七年のユネスコによる世界文化遺産の登録という、二つの大きな成果に結実しました。

現在、白川郷を訪れる観光客は、年間百万人を越えており、「観光立村」は達成された感があります。「守る会」では世界遺産の理念である「普遍的な文化的価値の共有」に基づき、ただ単に「住民の合意」にとどまらない、「国際規格」にも匹敵する新たな活動理念を構築する作業を日々行っています。



街道沿いの家並は、緩い勾配の民家が中心です。



③



①



④



②

①荻町を代表する風景 ②今なお新築されている合掌造り ③街道沿いは露骨な土産屋も多い ④街道からちょっと入るといい雰囲気の使用方

合掌造り民家にも苦難の歴史があります。昭和三十年代、庄川筋の電源開発や山間地での過疎により消滅する集落もありました。また、残った合掌造りも村外へ売却・移築されるなど、地域での危機感が高まり、その結果昭和四十六年に「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」が結成され、住民運動が始まりました。この間、昭和四十五年から三カ年、日本ナショナルトラストによる緊急保存助成金が交付され、また、集落の保存運動の先駆けとされる長野県妻籠宿の住民運動「妻籠を愛する会」との交流を行っています。

些細なことですが、白川村荻町の集落内には、自家用車のための駐車場がいたるところにあります。そのため歩いてみると、しばしば車に出会います。一方、相倉は集落の入口に駐車場を設け、集落内の民宿に泊まる客以外はすべてこちらに駐車します。菅沼は、国道から一段下がった集落なので、国道に面して駐車場があり、そこから歩いて下るか、エレベーターが用意されています。相倉・菅沼はコンパクトな集落なので、駐車場をまとめることができ、そのおかげで集落内では車に追い立てられることもありません。

その点、荻町の様子には雑然と感じるかもしれません。規模の大きな、そして人気のある保存地区ならではの悩みといえるかもしれません。